SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

タイの自然と皆既日食

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 伸一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025212

タイの自然と皆既日食

森　　伸　一*

1995年10月21日から、4泊5日の日程でタイに出かけた。目的は皆既日食を見るためである。日本とタイとは時差が2時間、成田を19時に出発した飛行機で6時間後の現地時間23時にバンコックに到着した。この時期のタイは雨期から乾期に変わる時で、幸運にも22日に雨期が明け、日食には好都合の天気となった。そのためかバンコックでは最高気温が30°Cをこし、また夏を体験することになった。

バンコック市内のホテルに行く途中で、最初に驚いたことは、低いところに見られる浸水と積まれた土のうであった。これは今回の雨期の雨量が10年ぶりに多く、各地で洪水を起こしているためである。翌日ホテル横の水量の多いチャオプラヤ川を船でのぼり、市内観光に出かけた。最初のワット・アルン（暁の寺）で裟羅双樹の木と花を見ることができた。また観光用の体長1 m以上もあるニシキヘビを希望（有料）によって肩にかけることができた。次に行った王宮内のワット・プラケオは別名エメラルド寺院といわれるように半透明、緑色のヒスイでできた高さ66 cmのエメラルド・ブッタが納められており見ることができた。

23日は6時頃ホテルを出発し、皆既日食帯のナコン・ラチャシマ（コラート）に移動した。早めに出発したのは交通渋滞を避けることと観測地を決める時間を確保するためである。高速道路を北上、ドンムアン国際空港付近で冠水した田畑が目立ち、高速道路の一部も浸水していた。高速道路より一段低い脇道ではひざ上ほどある水の中を人やオートバイ、車が行き来している。海岸より数10 km奥まで潮の干満に伴い水位が変わること、浸水の状態はこの後3カ月ほど続くことなどをガイドさんから聞き、日本との違いを実感した。車は北東方向へ進み標高100 m位となる。サラブリをすぎた付近からセメント工場が目立つ、道路脇の崖は石灰岩である。ランタコーンダム湖付近からが今回の皆既日食帯になっている。ダムの見晴らし台には露店があり、ヘビに似た模様をもつ魚や鳥肉を焼いて売っている。ここに着いたのは11時、「明日の今頃は皆既日食が終わっている。天気が良いといいな」と皆で祈った。ナコン・ラチャシマのホテルに着いたのは午後1時ごろ、ダム湖からホテルまでの間で日本からの観測ツアーが予約した観測点が2箇所ほどあった。また、夜にはホテルで本会員の春田博男さんにお会いした。

今回のツアーの仲間は91年7月のハワイ島皆既日食の観測に行き、共に涙をのんだ仲間12名で、1台のバスを貸切り移動した。ホテルで昼食をとった後、観測地点を探しに出かけた。この付近はコラート高原の西の端にあたり、なだらかな起伏が続く。みどりの草原（いも科のパピオカ、灌木など）と赤茶色のラテライト土が対照的である。観測地点の決定は白尾元理さん（月面写真などの専門家、フィリピン、ハワイ、ペルーと皆既日食3連敗中）にお任せした。中心線に近いパクチャンシャイ、コンブリなどを回って図1で示す地点が観測地点となった。ホテルに戻る途中、コクチャイの陶磁器

＊静岡県立袋井高等学校

の露店市場で、水差し、風鈴などのお土産を買った。夕食には、小型トラックを改造した車で町の中心へ出かけ、帰りにも“トウクトウク”と呼ばれる小型オート三輪のタクシーに乗った。

24日5時30分起床。天気よし、7時出発。皆既日食帯へ行く車が非常に多い。小学校のような広場にも人が集まっている。8時半頃に昨日決めた観測点に到着、写真撮影の準備に取りかかった。準備をしていると近所の人達が集まってくる。9時半頃から日食が始まり、積雲も所々に見られるが、気にせず撮影準備、あっという間に1時間が過ぎ、食分90%に、少しずつ暗くなり、涼しい風が吹く。10時53分第二接触、そして皆既に、「金星が見え、カメラの文字が読め、真っ暗ではない。写真を撮るのに必死、フィルターごしにのぞいているうちに終わった感じ、あっという間の2分間であった。見たい、撮りたい、いろいろ目移りがするとしっかり頭の中に焼き付かない、ヤッターと思うと共にもう一度見たいという気持ち、ダイヤモンドリングもよくわからなかった・・」と当日のメモに記されている。周辺には皆既日食を双眼鏡のみで見ることに専念する人、ビデオカメラで記録する人、標準レンズだけでコロナとまわりの星を撮影しようとする人、望遠レンズや望遠鏡持参、直焦点でコロナを撮ろうとする人など様々である。今回はカメラ2台、200 mm と 300 mm の望遠レンズ、自動追尾用赤道儀(マークメ)を持参、普通のフィルムとリバーサルフィルムをいれてコロナの撮影に的を絞った。友人のMさんは1分ごと時刻を告げる時計を持っていた。天体写真の撮影には必需品と思った。なお、食前と皆既中とでは気温が4℃変わった。皆既日食が終了すると共にかたずけを始め11時半には帰途へ。大渋滞、車は進まない。空港近くのホテルにたどり着いたのは夜10時を過ぎていた。

25日、起床3時30分、飛行機は朝6時に飛びたち成田へと向かった。ハワイの雪辱ができ、みんな満足した顔であった。

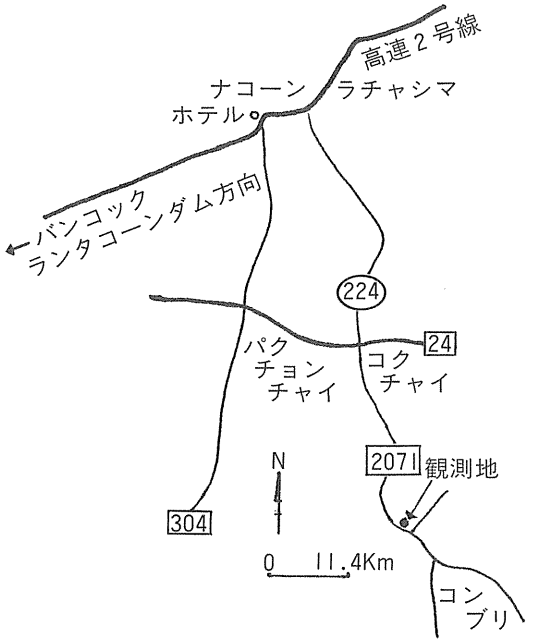

図1．皆既日食観測付近の位置図

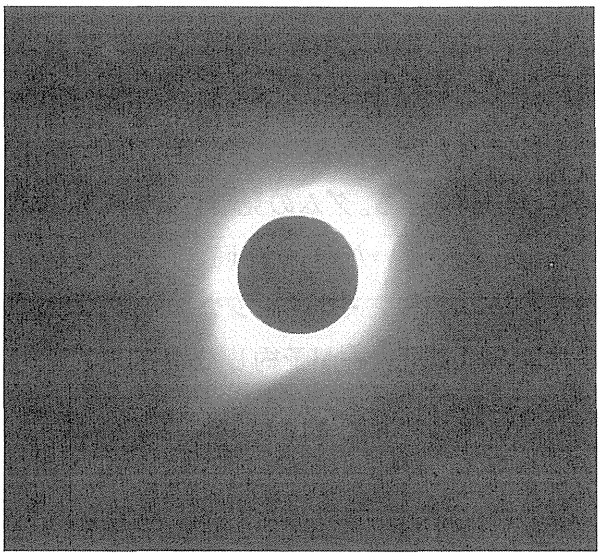

写真1．皆既日食中のコロナ
フィルム　フジクローム100
200mm望遠レンズX2倍テレパルス
絞り　3，1/15秒